

都庁から明治神宮

1月25日（火） 晴れ

- ★ 20日頃の天気予報では、25日は雨か雪が降る可能性があると言っていたが、当日は快晴・無風の散策日和となった。散策の会では殆ど雨に降られたことはなく、私は「晴れ男」と言われてきたが、水野氏は今日の晴れを「小島晴れ」と命名した。
- ★ 大江戸線・西新宿五丁目駅の出口から外へ出るとまず新宿の高層ビル群が目飛び込んでくる。北通りを新宿駅方向に向かって200mほど行くと十二社通りとの交差点で、交差点の一角に近代的なビル群とは対照的な明治時代風な建築の交番がある。この交差点を右折すると左手が熊野神社である。



交番



熊野神社の鳥居



熊野神社の本殿

- ★ 熊野神社は室町時代の応永年間に中野長者と言われた鈴木九郎が、故郷の熊野三山から十二所権現を移して祀ったものと伝えられる。江戸時代には滝や池のある景勝地として賑わい、文人墨客も多数訪れている。明治維新後は熊野神社と改称され、氏子は西新宿から新宿駅、歌舞伎町までを含む地域で、新宿の総鎮守となっている。



太田南畝（蜀山人）の書による銘文が刻まれた水鉢

- ★ 熊野神社の敷地の大部分は、現在は新宿中央公園となっている。新宿副都心計画の一環として、淀橋浄水場の跡地と併せて、1968年に都立の公園として開園し、1975年に新宿区に移管された。公園通りを挟んで都庁やホテルに隣接し、新宿副都心で働く人々の憩いの場となっている。園内には芝生広場、ちびっ子広場、休憩所などがあり、散歩をしたり読書をしたりして午後のひとときを過ごす人々の姿があった。また公園の一面には「小西六写真工業（現コニカミノルタ）発祥の地」の碑もある。



モード学園コクーンタワー



新宿駅の反対側から見た
東京都庁

- ★ 蔓延防止等重点措置が発出されているため都庁の展望台には入れないので、新宿中央公園を抜けて甲州街道に出た。目の前にあるのが新宿文化クイントビルである。文化服装学院の隣に建ち、文化学園が主体となって建てたもので、テナントとして文化学園服飾博物館のほか、ファイザー日本法人本社や KDDI が入っている。



新宿文化クイントビル



平田神社

- ★ クイントビルの横の小路を南へ入って行くと古い都営住宅などが並ぶ住宅街となり、10分ほど歩くと右手に平田神社がある。この神社は江戸時代の国学者・平田篤胤を祀る神社である。3階建て住宅の1階部分が神社で、2階と3階が住宅となっている。現在はコロナのため水、土、日だけ社務所を開いているということで、外から参拝するしかなかった。

6代目宗主の^{まいた}米田勝安氏は金子正男さんの大学時代の同級生だったそうで、学生時代から大変ユニークな人物であったという。

- ★ 平田神社から15分ほど歩き、参宮橋近くで小田急線の線路を越えると明治神宮の西参道の入口である。1月下旬ともなると参拝客もほとんどなく、しんと静まり返っている。砂利を敷き詰めてある広い参道を歩く私たち7人の足音だけがザクザクと響いている。やがて森の中に入ると前方に社殿が見えてくる。西神門から中に入ると左手に本殿があり、三が日にはなかなか近づけない拝殿まで進んで参拝をした。

西、南、東の三方の回廊の壁には小中学生の書いた書初めの作品が展示してあったが、その字の見事さには驚き、感動した。



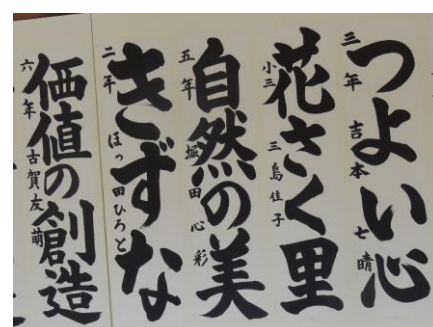
明治神宮西参道



西神門



拜殿



小中学生の書初め展

★ 神楽殿の横の東神門から出て北参道に行く。参拝客は西参道よりはやや多い感じである。10分ほどで代々木駅に着いた。ゆっくり座って休憩することのできる場所がなく、ほぼ2時間歩き続けたので大分疲れた。代々木駅近くのルノアールでコーヒーなどを飲んで休憩した。



俳句を頂きました。

十二社の 金ぴか神輿 春を待つ

神苑の 砂利道長し 冬日影

ビル街の 冬空見上げ 六十階 金子正男

高層の ビルの谷間の 小春かな

参道の 玉砂利軽く 春近し

回廊に 書初め並ぶや 令和四年 桑田青三

写真と文 小島恕雄

参加者 金子正男、桑田制三、小島恕雄夫妻、牧野昭夫、水野 聡夫妻 以上7名